

## 特別賞

### 自然と生き物

赤坂小学校 中塚 乃彩

日本にはたくさん自然があり、その自然や生き物たちが減っている。

八千年前は、森林は、六千七百六十九万平方キロメートルあったけれど今は、三千四百十二万平方キロメートルに減少している。それは人間が植物を切っているからだ。人間がむやみに植物を切っているから、動物たちのいばしよである自然がなくなってきた。それなのに人間はそのことを無視して自然をなくし続けている。時にニュースで動物たちが町においてきてうろうろと歩いている姿を目にすることがある。町で歩いていると中で車にひかれて命をおとす場合もある。それでは日本には動物たちがいなくなってしまう。そこで私は今、何ができるかを考えた。私は自然がふえるように、一人一本花や草を植えたらいいと思う。そして、今ある植物を大切にすれば、動物たちも自然の中で生きられると思う。

森林破壊により減少してしまった動物はたくさんいる。たとえばオランウータンやシベリアトラ、ライチョウ、カニクイザル、ヒグマ、ヘラジカなどである。また、森林の大きな木の根もとや梢にはたくさんの昆虫やそれをえさにしている鳥たちやその他の生き物がすみついている。森林がなくなれば、その生き物たちの住む所もなくなってしまう。またいろいろな木の枝や葉は植物が生きていくのに都合の良い湿り気のある空気を作り、とても快適だ。森が豊かであればあるほど生き物の種や数は多くなる。また、気候などにより生態系のタイプが異なれば森のタイプも変わり、すむ生き物も変わる。しかしその森林を伐採すると急に明るくなり、土は乾燥し、太陽の強い光や熱で今までのいた生き物はすめなくなってしまう。生き物の多様性は失われこの大きな変化が再び森林となるまでには長い時間が必要とされる。私はこのように貴重で多様な植物を人間の力でとりもどさなければならぬと思う。一人一人が自然を大切にする気持ちを大切に動物たちがじゅうぶんに生きていけるようにしたい。